

観自在

弘長寺寺報
第三十一号
平成二十七年
八月(年
二回発行)

菩提寺と先祖供養

弘長寺住職 森田裕光

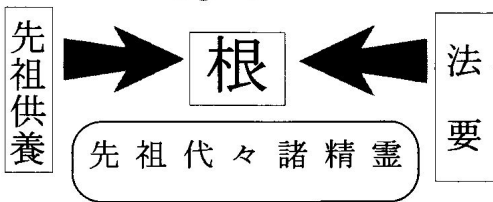
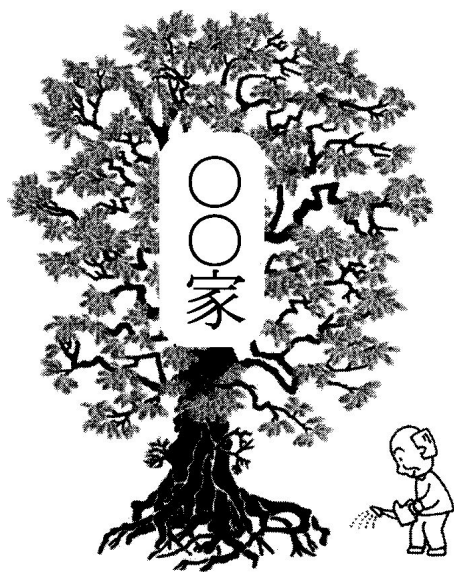
菩提寺ということについてお話をします。(再掲載文含む)

ご法事というのは、『亡くなった方を追慕する意味も勿論ありますが、法事をする事によってしっかりと自分が仏道修行をさせていただくのです。』

その修行功德が、亡くなった方へ回らし向ける追善供養となるのですが、根本義は自らの仏道修行のために修行させていただくことであります。』

私たちは今【何々家】として緑青々と木の葉を茂らせ、花を咲かせ、実を実らせています。

ご先祖様や亡くなられた先亡精霊の方々は見えなくても根の部分でしっかりと木(私共)を支えてくださっているのです。その根の部分に肥料や水(修行功德)を与えるのが法事であり、先祖供養なのです。しっかりと肥料や水を与えることによって【何々家】の木が強くなり、太くなっていくのです。



いろんな因果の要素はありますが、基本的に法事や先祖供養をおろそかにしてこの木が、自分の代はともかく、将来にわたって強く太くなることは決していないのではないかと私は思っています。根に肥料や水を与えるということは、将来自分の住む場所を快適にする準備をすることにもなるのです。

最近菩提寺を変えて離檀したいという方があり、驚きました。

基本的には「去る者は追わず、来る者は拒まず」ですが、お気の毒なのはその方の先祖代々精霊であり、あまりにも軽率な行為でありますので一言を呈します、決して真似などなさらぬように。

菩提寺の「菩提」という仏教本来の意味は「悟り」ですが、檀家と菩提寺という関係においては、「(亡くなった先祖代々精霊の)死後の冥福を弔う」という意味になります。

先祖代々の精霊が歴代住職により、葬儀で戒法を与えていただき、尊い仏弟子となるという、切っても切れない法縁で結ばれたお寺が菩提寺です。(住職から葬儀・受戒を受けた精霊は、そのお寺がたとえ廃寺になろうとも絶対・永遠に菩提寺です。)

その先祖代々精霊と菩提寺との絆や流れを、いとも簡単に自分の代に切り捨て、新しい菩提寺を求めるといふことは、我が家に菩提寺が二つ出来ることになり、先祖代々精霊を分断し迷わせる原因となります。

(根に除草剤をまくようなものといえるでしょう)

これは本末関係にある寺院同士でも同じです。(弘長寺は素晴らしい本寺様があるので全く問題ないのですが) 気に食わぬからといって簡単に関係を断ち切る訳にはいかないのです。

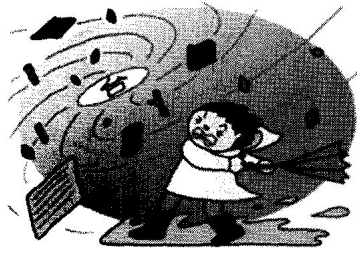
新しい 護持会会則のもと!

弘長寺護持会
会長 武田民三

弘長寺護持会皆々さまには、お揃いにてご健勝の日々をお過ごしのことと拝し、お喜び申し上げます。

今年の梅雨も異常なものとなりました。

七月に複数の台風がやって来て、日本列島のいたるところで豪雨災害を起こしています。



最近の気象予報に「生命の危険」と表現し警告する言葉がタビタビで恒常化し

た感があります。

日本の季節も、人為的な大量エネルギー消費等々の大気汚染によるものとされています。

気候は東南アジア地帯と変わらない酷暑の毎日が続いています。

地球の全人類が考えかたを改めなければ、どうにもならないと思いませんか?

さて、私達の菩提寺耐震改修の大事業も、檀家皆さまによる総力で完了致しました。

想えば阿弥陀堂改築に続き、重ねての大事業でありました。

このことは、檀家皆さまの拠り所としての私達の弘長寺護持会を、皆んなの組織としてたちあげ、自分たちの護持会との自覚で歩んでまいった成果であります。

私達の護持会は、平成十二年四月(平成十二年度)

に「曹洞宗護持会規程」の第二章「曹洞宗寺院護持会」

の定めに準拠して会則を制定したものであります。それまでは、組織としての態をなさないものでありました。

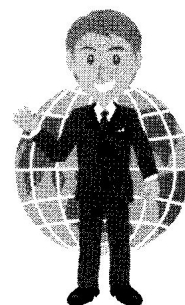
護持会発足以来、大事業達成を目指して、数次に亘り「一部改正」を重ねてまいりましたが、目標の成果を得たことから、平成二十七年(平成二十七年五月十七日)を期に、本来の形に整えるべく会則を改正し、新しい信念のもとでスタートすることになりました。

新しい会則のもと、代表顧問(住職)のご指名により、不肖私こと、平成二十七年(平成二十七年)度会長職を勤めることになりました。

組織内には、数多の適任者がお揃いであり、固く辞退を致しましたが、代表顧問である方丈さまから重ねてのお言葉であり、その器

にありませんがお受けさせていただきます。

この上は護持会の皆々さまのご指導、ご協力を賜り、渾身の努力をしております。



ところで、先日第五十八回「外国人による日本語弁論大会」をテレビで観て感じたことですが、彼等の日本観を紹介しましょう。

- ・「日本は四季のある美しい国」
- ・「禮儀正しい親切な国民」
- ・「もったいないの精神は素晴らしい」
- ・「古い伝統文化(いにしえ人の歌||大和うた)」
- ・「言の葉(コトのハ)が素晴らしい。」
- ・「造り変えの文化は日本独特のもの」
- ・「自動車産業・コンビニ等、工

業・商業の分野でも自国のものに造り変える力は偉大。

その反面では、多くの指摘もありました。

◎今の日本の若者の乱れた言葉使いは、残念に思う。育てた親の責任は大きい。

と述べています。

◎若者達は、信仰の神(佛)を失ってしまったのか?

◎日本の神道や佛教を大切に！素晴らしい文化を伝承してほしい。

と心配しています。



◎恵まれ過ぎの生活で、ありがたさが見えなくなっているのではないのか。

◎華やかさのある西洋文化に憧れてしまい、素晴らしい自国の古い伝統文化を忘れないで！

◎「クールジャパン」今、日本に風が吹いている。

等々と訴えています。

何だか、恥ずかしい心になつてしまいます。

私達、弘長寺護持会には、立派な伽藍、他にはない、尊い伝統、文化、信仰があります。

大切にし、深めてまいりましょう。

きつと方丈さまも、そのようにご期待なされていると信じます。

ありがとうございます。

追悼

追悼

護持会副会長

坂本研次

今年の八月十五日は、太平洋戦争が終わってから七十年になります。

昭和十二年(一九三七)

七月七日、日本部隊が北京郊外での夜間演習中、突如として起きた数十発の銃声によって日中戦争が惹き起こされ、昭和十六年(一九四一)十二月八日には太平洋戦争へと拡がり、長い年月にわたり国民生活のすべてが戦争へと変わっていきましました。



次第に情勢は苛酷となり、外地の戦線への兵員の補充、物資、弾薬などの輸送は困難を極め、また本土への空襲も激しさを加え、沖繩戦へと移り、遂に原子爆弾が、広島、長崎に投下されるに至りました。

昭和二十年(一九四五)八月十五日正午、「玉音放送」で、長い間暗くて辛かった戦いは終わりとなりました。

この戦争で、私は尊敬していた先輩、友人達、知人の多くを失いました。

故郷や家族に思いを馳せながら、あたら春秋に富む人たちがばかりです。

内地部隊勤務で戦場の体験もなく、平静になった故郷に帰り、爾来七十年、平和で豊かな日々を重ねきた己を思うとき、只々申し訳ない気持ちで一杯です。

私に出来ることは、戦没された人々の無念の思いを心に刻み、不戦、平和の願いを持ち続けることしかありません。

お赦し下さい。ふるさとの平和をお守り下さい。

合掌

お盆の季節

護持会副会長

内田松寿

五月の地区委員会・総会において副会長に再任されました。至らぬ者ですが何卒よろしくお願いいたします。

二月に町内の団地に住んでいた学生時代の友人が亡くなった。

亡くなったというより亡くなっていたといった方がいいのかもしれない。

三月に同学部・学科の同窓会に欠席だったらしい。

いつもは出席していたので、不審に思った学友が電話しても通じなかったの、家を知っている者が訪ねたところ、不在であり向かい隣の人に様子を伺ったところ、「腹痛で町内の医者に診てもらったところ、直ぐ市立病院に入院ということ

になったらしい。ガンが全身に転移して数日後に亡くなった。葬儀も家族葬とかで既に終わっている。」とのこと。

このことをサークル仲間の米子の友人から電話で知った。私も直ぐに友人宅を尋ねた。

玄関に鍵がかかっていたので中に入ってみた。各部屋は散らかっておりきちんと生活している状況ではなかった。

連絡先一覧表には私の電話番号も載っていた。一昨年の十二月、町内のスナックで会ったのが最後となった。

今年の賀状交換はしている。

元気そうに見えたが、医者嫌いで健康診断等は受けていなかったようである。

結婚後今の団地に居住し、三人の子どもがあったが、離婚している。

長男、次男は県外、長女

は県内生活らしいが、伯太町の実家は元気な者がいなくなり、遺骨が何処に埋葬されたのかなされなかったのか、また、四十九日法要等についても不明である。

同じサークル仲間六人にすぐ連絡して五月に松江で彼を偲ぶ会を開いた。

約十年ぶりとなる同窓会である。

彼に纏わる思い出や近況を話し合った。

卒業後住所不明の仲間の住所を一人にきた賀状から知ることとなり、携帯電話を皆で回して彼と話をした。実に四十六年ぶりの会話である。

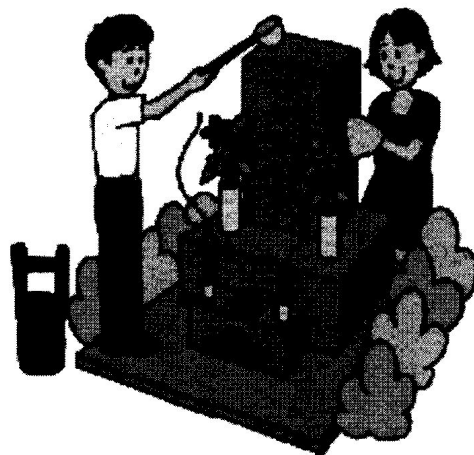
今年もまた、お盆の季節が巡り来ました。

墓掃除等がひと仕事である。

現実に、墓の管理がされていなくて全国各地で問題になっていると聞く。

子どもを当てるのは、少々無理なご時世である。

そうなれば墓に遺骨を入れず、散骨を真剣に考えたりする。密葬や家族葬が多くなつて来る。



荒れ放題の墓を見るにつけ現代の世相が垣間見られる。

我が家では二か所に無縁墓があり一年に一回掃除をして祭っている。

私が元気なうちは墓の管理もできるが、逝って世代交代した後は子どもが墓を管理する保証はない。

子どもと話し合いが必要だと思いつつもままならないでいる。

お知らせ

お願い

● 施食会

恒例の当山最大の行事であります山門大施食会法要を八月七日に行います。

● 施食会布教師は、広島県庄原市萬福寺住職 高橋道英師、演題は「生まれた責任」でございます。

● 盆棚経

盆棚経は昨年同様、期間を延ばしてなるべく全檀家を廻る予定です。

八月十三日〜二十日まで、

八日間なるべく全檀家を廻る予定です。

朝七時〜夕六時迄、十四日は初盆のお宅に参ります。

初盆参りの時間指定はできません。

葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)

生じた場合は、全檀家を廻れない場合もありますのでご了承ください。

徒弟大裕と二人で手分け

して廻りますが、今年はスタートを弘長寺から鏡浜東浜西池田小松中垣内ヶ峠久戸大森横見大野菅原和名佐大谷柳井穴道松江方面と廻ります。

● 秋葉祭は本年も読経供養のみ、カラオケ大会は諸事情により来年(平成二十八年)まで休止します。

秋葉二尺坊の御真前幡とポールを換えました。重い杉材料でしたが、伸縮自在のアルミポールにいたしました。

また、御真前横幕も作りましたので、御喜捨いただく方があれば、幕に喜捨名を入れてさせていただきます。

● 三月お彼岸、長崎県佐世保市・護国寺様で法話をいたしました。

住職が宗務庁の布教師養成所で学んだ同期の護国寺様に招待されました。

京都大学から駒澤大学大学院に進まれた秀才でいらっしやいますが、寺報のやりとりから懇志にさせていただいてい

る方丈さまです。

沢山の教えを戴いています。



前晩はホテルにて歓待を受け、難しい教学論争となりましたが、どちらも持論を譲らず楽しい時間をすごしました。

法話の後、ファンになったという(もちろんお世辞でしょうが) 婦人部の方達の門送を受けました。(写真)

● 護持会新役員・地区委員 護持会地区委員任期満了につき、左記の方々が地区委員・役員に選出されました。(三年間)

役職	名前	地区
会長	武田民三	弘長寺
副会長	坂本研次	久戸
副会長	内田松寿	来待大森
事務局長	梶谷均	内ヶ峠新
事務局次長	高木弘宣	弘長寺新
監事	内田磯弘	和名佐

監事	伊藤 薫	大谷
幹事	高木 大	弘長寺
幹事	今川光雄	弘長寺
幹事	勝部 博	鏡
幹事	武田伊都雄	浜東
幹事	今川充佳	小松新
幹事	伊藤 勉	久戸
幹事	土江祐治	久戸新
地区委員	土江澄雄	鏡
地区委員	伊藤光範	浜東新
地区委員	福岡昌幸	浜西新
地区委員	伊藤 巖	浜西新
地区委員	伊藤 進	池田新
地区委員	岸本幸夫	小松新
地区委員	飯塚哲久	中垣新
地区委員	渡部 均	横見新
地区委員	石田 正	大野新
地区委員	勝部 均	柳井新
地区委員	土江政春	穴道

★護持会規約も大幅に変更しておりますので、一度目を通して下さいませ。

● 護持会主催研修旅行

本年度研修旅行は、十一月十日〜十一日 鎌倉行きです。七月二十三日現在で、十九名の参加です。

最終締め切りは七月三十一日ですので、どうぞお申し込み下さい。

住職は考える ②

でが、この二月の後やつと師宗の報告された。

すべし、せつ、本庁の報告は、数ヶ月前から、宗議会の報告は、内容を公表して、

すめ、大寺の改革の、一歩で、

出来、来、

集団的自衛権について

れわが仏の、戦後七十年という節目、

い和に誓宗も、の恥舌い派出、看ず抜かかです、板かかれます、をしますよ、降いからよ、らて早魔さ戦類、下くさ平ん、



そで、り、「い、議、

あ況の、り、

学安部、理、

さ、を、

ズ、大、

か、悟、

報、お、

報、告、

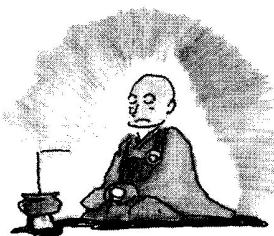
す、な、

念、ナ、

しく、し、

悟りについて

述、い、



住職は考える ③

りあると思ひます。は二通
 一「つは曹洞宗、もう一つ
 は臨濟宗「頓悟」です。
 「修証」は、
 字「修証一行なり」とい
 す。まが悟りというは、そ
 の文

の慧能漸頓悟は北宗禅(神秀)
 慧能禅師(南宗禅)が鑑
 慧能は師は六祖の經中
 示さされてる。
 との示さされてる。

曹洞宗には、頓悟はあ
 るのかと云えば、実悟はあ
 るので云はば、

天下敬称は道元禅師(中)
 が居眠りを始めた。隣の中
 履それを見ても、浄禅僧
 打ちそれを靴で踏んで、
 落さぬのを言葉「悟身心
 と「浄禅師の丈室
 さを「浄禅師の丈室

で焼香され、「何のため
 「身心脱落した」として
 可「悟りを証明」された。



道の元禅師が素晴おら
 様の「可量師とい
 し「上せられた。浄禅師は
 と「再身心脱落を認められ
 とある。

のぶのか頓恐し
 印可というものはど
 のぶのか頓恐し
 印可というものはど

な印可であつても永遠に
 強か量であつても永遠に
 思ひます。

絶對的あなたがある、全
 禪師定するは、全
 禪師定するは、全

異に臨濟的であつても、
 だを臨濟的であつても、

ななれな
 いたしにも思ひます。

ま等ないで「
 がないうある禅に「

禅最大眼にして究極の教
 正法眼にして究極の教
 大行證の意に
 判明「昨年の現職研修に
 元明「昨年の現職研修に
 逸脱するの意を修す。



は「お苦行六年であり、端座
 うし「端座六年あり、端座
 うし「端座六年あり、端座

